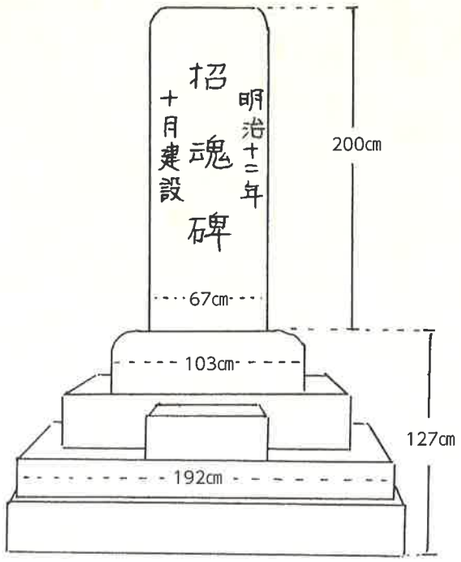
招魂碑（鹿児島神社境内、マップ③）

明治12(1879)年10月、生還者一同が分担金を出して建立したものです。当時の金額で総額167円90銭との記録があります。もともと中町の墓地近くに有りましたが、日清戦争の忠魂碑が建立されたとき、現在地に移されました。

鹿児島神社の境内に、日清・日露両戦役の石碑と並んで一番北側に立っています。明治13年２月13日に祭式が行われたとの記録があります。



鹿児島神社境内招魂碑

戦死者	**85 名**
生存者	**365 名**
後馬場方面	29 名
犬馬場方面	25 名
中馬場方面	33 名
早馬方面	25 名
上松原・中松原方面	25 名
下松原・下宮方面	21 名
敷根方面	31 名
下福町方面	31 名
中町・下町方面	10 名
本城方面	46 名
水之上方面	40 名
高城方面	6 名
新御堂方面	14 名
上之宮方面	5 名
市木方面	10 名
元垂水方面	7 名
中俣・海潟方面	7 名
従軍者計	**450 名**

西南戦争と垂水

昭和３(1928)年、郷土史家・山口栄之氏が、15歳で西南戦争に従軍した立山健氏（戦争の当初から田原坂、豊後路、可愛獄突破、城山陥落まで同行）を中心に、聞き取り調査の結果をまとめたものと、従軍者・堀之内雄輔氏の日記をまとめた「西南之役従軍記」（垂水市教育委員会　昭和52(1977)年）が発行されています。

私学校分校（マップ④）

- 明治６年の政変に敗れた西郷隆盛を慕う青少年を教育指導する目的で、明治７(1874)年私学校が設立されました。篠原国幹の主宰する銃隊学校と、村田新八の監督する砲兵学校からなり、県内に136の分校をもっていました。このほかに、私学校と同じ趣旨で設立された賞典学校、吉野寺山の開墾社が設立されました。県令大山綱良は、県下の行政組織を私学校派で固めました。垂水も麓を中心に私学校派が多くいました。

明治９(1876)年11月ごろ、今の垂水小学校お長屋で私学校が始まります。当時は５人組を組まないと入学できませんでした。授業の内容は剣術が殆どで、申し訳程度に漢学の講義があったと云われています。

ここで学んだ多くの者が西南戦争に従軍しました。

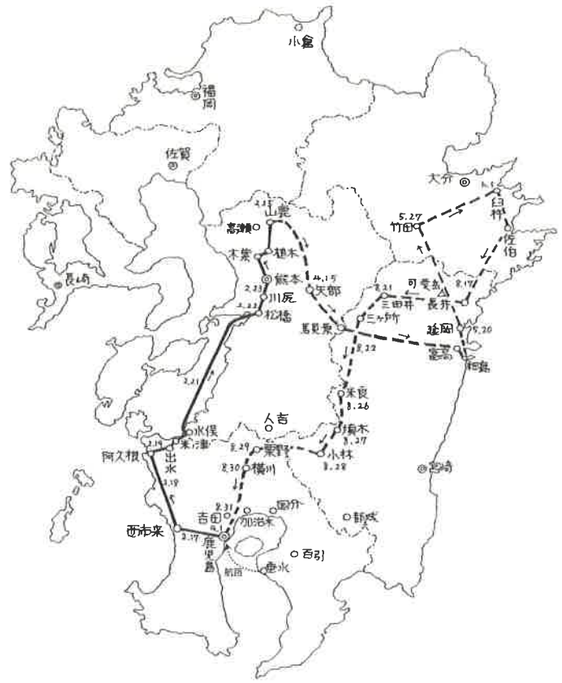
西郷メモ

このページには、西郷隆盛と垂水地区の関わりについて書いてあります。あなたが新しく知ったことや、西郷隆盛と垂水地区との関わりについて思ったこと、感じたことなどを自由に書いてみましょう。

伝えられている当時の様子

- 明治10（1877）年２月10日、船手の下の浜（マップ⑤）から、数10艘の船で鹿児島に出陣しました。17・8歳から2・30歳くらいまでの年齢の人が最も多く、中には4・50歳くらいの老武者もいたと云います。総勢400数名でした。
- 入隊までの間の旅費とその後の小遣いとして、少なくない金額の金子が必要でした。中には、戦争に行く人に金を貸すと、返ってくる見込が無いと借金に応じてくれる人がおらず、困ったということもあったそうです。

立山健氏転戦図



15歳で西南戦争に従軍した
立山健氏の転戦図